

完了後の評価個表

事業名	森林環境保全整備事業（国有林）	事業実施期間	平成19年度～平成23年度（5年間）
事業実施地区名 （都道府県名）	くしろねむろ 釧路根室森林計画区 （北海道）	事業実施主体	北海道森林管理局 こんせんせいぶ 根釧西部森林管理署
完了後経過年数	5年	管 理 主 体	根釧西部森林管理署
事業の概要・目的	<p>本事業は、北海道の東部に位置し、釧路総合振興局の西部、釧路市を含む1市6町1村に所在する国有林約182千haを対象としている。</p> <p>人工林面積は約31%にあたる約57千haで、そのうち間伐の対象となる林分が約8割となっている。さらに今後は主伐対象となる林分も増え、併せて更新面積の増加が見込まれることから、森林整備の重要性が高くなっている。</p> <p>また、本地域は、管内の主要な河川の上流部を占め、特徴ある多種多様な森林を構成し、原生的な森林や、昭和30年以降造成されたトドマツやカラマツ等の人工林により形成されている。これらの森林は、良質な水資源の供給元であり、生活用水をはじめ、畑作酪農の農業用水など多種多様に利用されていることから、地域の基幹産業である農業や漁業等の繁栄に繋がる適切な森林の管理経営が求められている。</p> <p>本事業では、これらの地域の期待に応えるとともに、地球温暖化防止等森林の有する多面的機能の発揮のために必要な、植栽等の更新作業、間伐等の保育作業及び効率的な森林整備を推進するための路網整備を実施した。</p> <p>・主な事業内容： 森林整備 更新 726 ha 保育 9,259 ha 路網整備 開設 延長 4.0 km</p> <p>・総事業費 2,943,899 千円</p>		
① 費用便益分析の算定基礎となった要因の変化	<p>平成29年度時点における費用便益分析の結果は以下のとおりである。</p> <p>なお、事前評価で算出した総便益又は総費用と、事後評価で算出した総便益又は総費用との間の差異については、補正予算等による大幅な事業量の増加や林野庁における統一的な算定方法の変更によるものである。また、総便益が事業採択時と比べ減少したのは、路網整備の計画量と実績量に差異があったためである。</p> <p>総 便 益 (B) 19,126,059 千円 (事業採択時: 46,764,277 千円) 総 費 用 (C) 7,015,035 千円 (事業採択時: 5,124,512 千円) 分析結果 (B/C) 2.73 (事業採択時: 9.13)</p>		
② 事業効果の発現状況	<p>・更新・保育によって9,985haの森林が整備されたことにより、水源の涵養や国土の保全、炭素の固定による地球温暖化防止等、森林の有する公益的機能の維持増進が図られた。</p> <p>・開設によって4.0kmの林道が整備されたことにより、木材の搬出距離・経費の縮減及び木材搬出用トラックの通行量の増加に対応した路網整備を行ったことで効率的な木材生産が図られた。</p> <p>・施業地まで自動車に対応できるようになり、効率的な森林管理の実施及び造林作業員の歩行時間の短縮や資材運搬等の経費の縮減が図られた。</p> <p>・雇用の場を提供して、地域の社会経済に貢献した。</p>		
③ 事業により整備された施設の管理状況	<p>・整備された森林の林況は、継続して適切に管理されており、良好である。</p> <p>・路網整備された路線は、良好に維持・管理されている。</p>		

<p>④ 事業実施による環境の変化</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・森林整備事業の実施により、山地保全や水源涵養などに応じた森林が形成され、それぞれの役割が果たされている。 ・路網整備事業の実施により、森林整備施業地までの到達時間の短縮、作業コストの縮減等が図られるようになった。 ・周囲の森林と調和した適切な森林施業は自然景観の保持に役立ち、森林資源の育成充実のほかレクリエーション・保健休養等の保健文化機能を充実させている。
<p>⑤ 社会経済情勢の変化</p>	<p>本地域の経済情勢は、大きく変動している部分は見られないが、恵まれた草地基盤を生かして大規模な酪農が展開されている。また、北洋さけ・ます、さんま等の漁船漁業、秋さけ等を主体とする定置網漁業、こんぶ等の採介藻漁業が盛んで、道内漁業の一大生産地域を形成しており、工業では、水産加工品、乳製品等の食料品製造業が主体となっている。</p> <p>本森林計画区における人口は、平成17年度には約346千人であったが、平成27年度には約313千人に減少しており、林業就業者数も年々減少している傾向にある。こうした状況の中、道内でも緩傾斜地の多い恵まれた条件を生かし、高性能林業機械を含む機械作業システムの導入が促進されており、林道、林業専用道及び森林作業道の有機的な連結による効果的な森林施業の展開が期待されている。</p>
<p>⑥ 今後の課題等</p>	<p>森林の持つ公益的機能を高度に発揮させるため、事業計画に基づいて着実に事業を実施することが必要である。</p> <p>なお、今般の事業実施に関する事業対象区域の地元意見は以下のとおりとなっている。</p> <p>(北海道)</p> <p>森林整備事業及び路網整備事業の実施により、森林の有する多面的機能の維持増進が図られたと認識している。今後も国有林と民有林で一層連携して森林整備を推進していただきたい。</p> <p><small>くしろ</small> (釧路市)</p> <p>森林整備事業により、森林の有する多面的な機能の維持・促進が図られたものと評価する。また、本事業の着実な推進は、木材価格の低迷や後継者不足等の問題に対して効果が見込まれる。本市においても地域材の安定供給及び雇用の創出を目指すべく、計画的な森林整備を実施していることから、主要産業の一つである林業・木材産業の発展のため、今後も同事業の継続を期待する。</p> <p><small>くしろ</small> (釧路町)</p> <p>釧路町内の国有林は、本町北部の沿岸線に水源涵養、防霧保安林が多く所在しており森林整備事業により保安林機能や森林の有する多面的な機能の維持・促進が図られたものと評価する。</p> <p>今後も、適切な森林整備の実施及び地域民有林事業者等のモデルとなるような森林整備事業の実施をお願いしたい。</p> <p><small>あつけし</small> (厚岸町)</p> <p>本町は、基幹産業である水産業の増殖や酪農業の環境保全、更に水資源確保に森林の持つ多様な機能は不可欠となっており、森林は環境資源として強く認識しているところである。そのため、今後も森林整備事業の実施により、森林の持つ多面的機能が持続的に発揮できるよう事業の継続を要望する。</p> <p><small>てしかが</small> (弟子屈町)</p> <p>弟子屈町内の森林のうち、国有林の割合が高い本町において、森林整備が確実に実施されたことは十分評価できるものである。今後も、同事業の継続と国有林の整備を要望する。</p>

	<p>つるい (鶴居村)</p> <p>本村の水資源保全地域の上流域に位置する国有林において、森林整備事業が実施されたことにより、水源涵養、林地保全等、森林の有する多面的機能の維持、増進が図られたものと評価する。また本村の茂雪裡地区においては、主産業の一つである酪農業の営農用水を国有林内より取水しており、水質、水源の保全及び地域住民の民生の安定の観点から、今後も、造林、間伐等の森林整備事業を継続することを要望する。</p> <p>国有林の占める割合が高い本村においては、森林整備が確実に実施されたことは十分に評価することができる。また、本年度においては、本村職員等の国有林内での施業視察の機会を設けていただき、施業箇所、方法等の情報共有が図られたことは高く評価できるとともに、今後も同視察の機会等を設けていただきたいとお願いしたい。</p> <p>しらぬか (白糠町)</p> <p>水源地上流域における間伐を主体とした森林整備事業の実施により、水源涵養機能など森林が持つ多面的機能が高度に発揮されることを期待するとともに、広大な森林を管理する国有林野事業において広域に渡って事業推進が為されていることを高く評価する。また、豊富な水資源を有する本町において良質な水の安定供給は必須であることから、今後も森林の持つ多面的機能が持続的かつ高度に発揮できるよう事業の継続を要望する。</p> <p>しべちや (標茶町)</p> <p>国有林は周辺に水資源保全地域が設定されている地域もあることから、間伐等森林整備が実施されたことにより、森林の持つ多面的機能の発揮と良好な森林の形成が期待でき評価することができる。今後も、森林の持つ多面的機能が持続的に発揮されるよう事業の継続を要望する。</p> <p>はまなか (浜中町)</p> <p>森林整備事業の実施により、水源涵養機能など森林の持つ多面的機能の発揮を期待している。今後も森林の持つ多面的機能が持続的に発揮できるよう事業の継続を要望する。</p>
<p>森林管理局事業評価技術検討会の意見</p>	<p>本事業の実施により、水源涵養や山地保全等の森林の持つ公益的機能の維持増進が図られてきており、事業の効果が発揮されていると認められる。</p>
<p>評価結果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 必要性 本地域は、大半が水源かん養保安林に指定されており、また、地域の基幹産業である沿岸部の漁業や農業に対する水質の保全に配慮した施業実施が求められている地域であり、更に、地球温暖化防止対策や国土保全の観点からも事業の必要性が認められる。 ・ 効率性 費用便益分析の結果から、事業の効率性が認められる。 ・ 有効性 本事業の実施により、林道を通じた森林へのアクセスが向上し、コスト縮減や木材生産の効率化等が図られるとともに、森林の有する多面的機能が発揮され、引き続きその効果が発現されるものと見込まれる。 <p>また、これらの直接的な効果のほか、地域の基幹産業である農業や漁業に対しても、山地保全や水質浄化等の機能の向上を通じてその振興に役立っており、事業の有効性が認められる。</p>

別紙様式7

整理番号2

便 益 集 計 表

事業名: 森林環境保全整備事業

事業実施主体: 根釧西部森林管理署

事業実施地区名: 釧路根室森林計画区(くしろねむろ)

(都道府県名: 北海道)

(単位: 千円)

大 区 分	中 区 分	評価額 (千円)	備 考
水源涵養 ^{かん} 便益	洪水防止便益	3,465,352	
	流域貯水便益	1,387,739	
	水質浄化便益	2,918,257	
山地保全便益	土砂流出防止便益	8,380,870	
環境保全便益	炭素固定便益	1,719,244	
木材生産等便益	木材生産等経費縮減便益	65,692	
	木材利用増進便益	88,721	
	木材生産確保・増進便益	1,057,590	
森林整備経費縮減等便益	森林管理等経費縮減便益	1,759	
	森林整備促進便益	40,835	
総 便 益 (B)		19,126,059	
総 費 用 (C)		7,015,035	
費用便益比	B÷C=		2.73

29年度 完了後の事業評価 概要図

釧路根室森林計画区的位置図

実施主体:根釧西部森林管理署



凡 例	
国 有 林	
主 要 山 岳	
鉄 道	
森林計画区界	
市 町 村 界	
振 興 局 界	
森林管理署等	
森林管理署界	

